

平成 25 年 3 月 21 日
J Aバンク(J A・信連・農林中金)

「J Aバンク中期戦略（平成 25～27 年度）」および
「J Aバンク中期人材開発計画（平成 25～27 年度）」について

このたび J Aバンク（J A・信連・農林中金）では、次期 3 か年（平成 25～27 年度）の総合的戦略として、J Aバンク中期戦略（平成 25～27 年度）および J Aバンク中期人材開発計画（平成 25～27 年度）を策定いたしましたので、お知らせいたします。

1 J Aバンクの目指す姿

- (1) わたしたちは、組合員をはじめとする地域のみなさまのニーズに立脚した事業を一層強力に展開し、食と農、そして地域社会にこれまで以上に貢献してまいります。
- (2) わたしたちは、成長産業と位置づけられている農業が、厳しい環境のなかでも成長するために、「農業メインバンク」機能を一層強化することで貢献してまいります。また、地域のみなさまの家計や暮らしを支える生活金融サービスの提供を通じて、みなさまから選ばれ信頼される J Aバンクを実現してまいります。
- (3) わたしたちは、こうした事業の展開により、

①「J A貯金 100 兆円」の早期達成を目指してまいります。

②そのステップとして、次期 3 か年においては、

「J A貯金 95 兆円」と「J Aバンクローン 10 兆円」の目標を達成いたします。

2 具体的な事業展開

(1) 「農業メインバンク」の機能を強化いたします

現行の中期戦略では、「オンリーワンの農業メインバンク」として、農家のみなさまへの金融サービスの向上に取り組んでまいりました。

次期 3 か年においても、J Aグループの総合事業を活かし、農家のみなさまのニーズに的確なサポートを行い、地域農業の発展に貢献してまいります。

- ① 県域「農業金融センター」機能の拡充などにより、J Aバンク一体となって、農家のみなさまに農業金融情報や農業融資商品などのサービスをご提案・ご提供いたします。
- ② 農業制度・農業金融の知識を備えた「J Aバンク農業金融プランナー」の資格保有者を増員し、より専門性の高いサービスの提供に努めてまいります。
- ③ 「アグリシードファンド」による農業法人等への資本のご提供に加え、新たに「担い手経営体応援ファンド」（仮称）を創設し、更なる規模拡大のニーズにお応えしてまいります。
- ④ 6 次産業化については、(株)農林漁業成長産業化支援機構法を踏まえて、農林中金に

よる機構への出資，他全国連と連携した6次産業化事業体へ直接出資するサブファンドの立上げ等により，6次産業化促進に取り組んでまいります。

- ⑤ 子どもたちへ農業や食の大切さを教える観点から，「教材本贈呈事業」および「教育活動助成事業」といったJAバンクの一体的な社会貢献の取組み（「JAバンクアグリサポート事業」）を継続してまいります。
- ⑥ 農山村は再生可能エネルギー事業に関し大きな可能性を有しており，その利活用のニーズの高まり等を踏まえた全国要項資金の創設，融資・事業ノウハウの蓄積を進めてまいります。

(2) 更なるお客さまのニーズに応じた生活金融サービスの提供に努めてまいります

地域に密着した「フェイス・トゥ・フェイス」のきめ細かいサービスにより，ご家族のみなさまのライフイベントに応じたご提案を行い，家計やくらしに貢献してまいります。

- ① 貯金・国債・投資信託等のお取引により，確実な資産形成をお手伝いいたします。
- ② 住宅ローンをはじめとする各種のJAバンクローンのご提供により，豊かで潤いのある地域のくらしへ貢献いたします。
- ③ 各種イベントや地域のコミュニティ活動を通じて，年金をお受取りのお客さまのくらしへ貢献するとともに，相続のご相談に応じ，次世代への確実な資産の承継をお手伝いいたします。
- ④ 提携ATM網の拡大・手数料無料化（現在：全国約64,000台）や，インターネットバンキング機能の充実等を進め，給与振込やJAカードをご利用いただくお客さまの「便利さ」を追求してまいります。

(3) 金融機関としての公共性を強く意識し，その責任を全ういたします

地域社会や経済を支える責任，金融ネットワークの一員としての責任を強く自覚し，高いコンプライアンス意識の醸成とリスク管理の強化に努め，その責任を果たしてまいります。

- ① 金融機能不正利用者の犯罪からお客さまを守るとともに，犯罪収益の移転を防止するため，システム対応や職員教育を徹底してまいります。
- ② 金融円滑化については，法律の期限到来後も金融機関の重要な社会的使命と位置づけ，お客さまの経営状況を踏まえた貸出条件緩和の検討や経営相談対応・経営改善支援等について，引き続き真摯に対応してまいります。
- ③ JAバンクの電算システムを重要な社会インフラと位置づけ，引き続きシステムリスク管理の万全を期し，その安定運行に努めてまいります。
- ④ 大規模災害の発生時でもお客さまに基本金融サービスを継続して提供できるようなインフラ面での諸対策にも努めてまいります。

(4) サービス力や経営力の基礎的資源である人材の育成と能力開発を強化します

目まぐるしく変わる環境に適応し，率先して組織の変革に取り組む人材や，お客さまから選ばれ信頼される人材の，安定的・持続的な育成に取り組んでまいります。

また、お客さまの一層の満足と信頼をいただくために、常にお客さまの立場に立つという職員の意識改革を進めてまいります。

以上

(本件に関する照会先)

農林中央金庫 広報企画室 (野田・内田)

(TEL : 03-5222-2017)

J Aバンクは、J Aバンク会員 (J A・信連・農林中金) で構成するグループの名称です。

10年後に目指す姿

食と農、そして地域社会にこれまで以上に貢献する姿

みなさまから選ばれ信頼される姿

次期 J Aバンク 中期戦略・中期人材開発計画

J A貯金 95 兆円、J Aバンクローン 10 兆円の達成

お客さまの立場に立った商品・サービスの提案・提供を徹底

訪問活動

農家のみなさまへの農業金融サービス向上
お客さまへの生活金融サービスの向上

店舗

相談力・提供力の発揮

商品・サービスの品質向上・見直し

農業メインバンク機能の強化

- 農業金融商品の拡充（利子助成、各種ファンド等）
- 農商工連携推進・6次産業化促進
- 地域活性化サポート（再生可能エネルギー利活用等）

お客さまのニーズに対応した生活金融サービスの提供

- 貯金・国債・投信等による確実な資産形成のお手伝い
- 相続のご相談に応じ、次世代への確実な資産の承継をご支援
- 提携ATM網拡大・手数料無料化等、「便利さ」の追求

金融機関としての公共性機能の発揮

- 恒常的な金融円滑化への適切な対応
- 万全のシステムリスク管理による電算システムの安定運行
- 大規模災害発生時における基本金融サービスの継続的な提供に向けた諸対策の実施

サービス力や経営力の基礎的資源である人材育成・能力開発

環境の変化に応じ戦略・方針を策定するリーダー、お客さまから選ばれ信頼される人材の育成・意識改革